

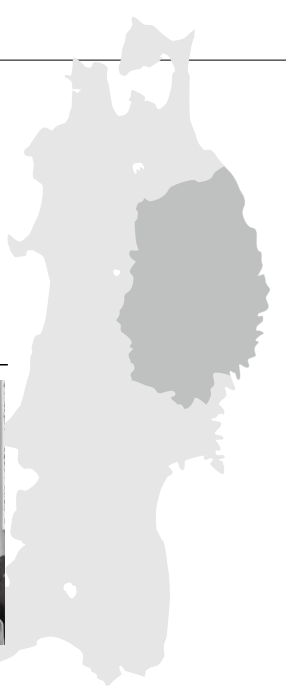


■被災地出張授業……2013年 10月23日

観光立国への道

講師：星野 佳路 観光立国推進PT 委員長(星野リゾート 代表)

2013年10月23日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、星野佳路観光立国推進PT委員長が岩手県立宮古商業高等学校を訪れ、全校生徒468名を対象に、観光産業の魅力について、また観光立国になるには何が必要なのかを語った。



利益を出さなければ事業の継続はできない

皆さんの住むこの岩手県宮古市周辺は素晴らしい景観や食があり観光地として有名です。皆さんの周りにも観光事業に携わっている方が多いことでしょう。観光で最も大切なことは何か。これはお金をもうけることです。お金もうけというあまりいいイメージはないかもしれませんが、しかし、どんなに観光が地域にとって重要で、どんなにいい仕事をしていても、その事業で利益を出さなければ存続はできません。だから、10年、20年と事業を継続していくためには、必ずお金をもうけなければいけないのです。

観光産業は消費者と直接コミュニケーションをします。これが観光産業の特徴の一つです。また、観光地は北海道から沖縄まであります。しかも、これまで誰も知らなかった場所でも、やり方によっては新しい観光地になる可能

性があります。どこでも誰でも始められる、これも観光産業の特徴です。

国内では最も需要が安定している観光産業

そして、もう一つの大きな特徴は需要が巨大かつ安定していることです。過去にさかのぼってみると、バブル経済崩壊の時も、リーマン・ショックの時も、他の産業は落ち込みましたが、観光産業は安定していました。直近では東日本大震災後の東北は落ち込みましたが、日本全体の統計を見ると例年と変わりませんでした。一般的に、商売は好調の時よりも不調の時の方が報道されやすいため、人の主観に惑わされないためには、数字を統計で見ることが非常に大切です。

さらに国内宿泊旅行者数は年間4億人に上っており、国内の需要(旅行消費額)は約22兆円という規模を持ちます。

こうした中で、今、劇的に増加しているのが海外からの旅行者です。統計を見ると、2004年には約600万人だった海外旅行者は、2013年には1,000万人を超えそうです。このように需要が急成長している産業は多くはありません。

急成長の理由は、世界的に、特にアジアの新興国を中心に海外旅行をする人たちが急増していることです。今、北海道の新千歳空港は、タイからの直行便が毎日就航しています。そのほか、

インドネシアや中国などからたくさんの方が来ます。行ってみたい国の調査をすると、多くの国で日本は上位にランキングされます。

今後ますます海外からの旅行者は増え、10年後には倍以上になるかもしれません。この需要に応えるためにも、これからの日本は観光立国として、さらに観光産業を発展させていかなければならないのです。

人が旅をするのは異文化体験をするため

人はなぜ旅をするのでしょうか。私は、旅の本質は「異文化を体験すること」だと思っています。その地域にはどんな食べ物があって、どんな人たちが住んでいるのか。そういった関心や興味を持ち、その地域らしさを求めて旅をするのではないのでしょうか。

これまで日本の中では観光地として注目されていなかった、あるいは不利に感じていたことが、発想の転換や皆さんの取り組みによって、大きなインパクトを持つ観光資源になる可能性があります。「どんな異文化をどうやって提供するか」がとても大切です。

冬になれば雪が降ります。東北の人にとっては当たり前のことですが、赤道直下の国や中東の人にとって雪は貴重な価値ある体験です。青森県の地吹雪体験ツアーは、何年も前から人気の

企画です。東北にとって雪は非常に大きな観光資源です。中東は石油という資源で豊かになりました。私は、雪が石油のような価値を持つかもしれないと本気で考えています。

さらに日本の文化的特徴の一つとして「食」があります。日本人ほど、食にこだわりと厳しい目を持つ旅行者はいません。地域ならではの食文化体験は、旅の醍醐味です。

青森県の大間のマグロは、有名ですが、市場で一番高い値段が付いた最も良質のマグロは東京の築地に行きます。その一方で、大間のマグロが食べたいと東京から青森に行く人もいます。こ

れは少し矛盾しています。本来、観光の視点から言えば、大間のマグロは東京に出すべきではありません。そこに来なければ食べられない食文化を創ることも大切なのです。

地域を大切に 人と人との関係を築く

異文化体験を提供するために大切なことは、「地域らしさを大切にする」ということです。ぜひ地域の歴史や伝統、文化、特殊な技能などをスキルとして身に付けてください。自らが異文化を人に提供できることは、将来、必ず大きな財産になります。

そして、海外からの旅行者と友達になってほしい。これからは街中で外国の観光客に出会う機会も増えてくるでしょう。そのときは、ぜひ“May I help you?”と声を掛けてほしい。相手の質問にうまく答えられなくても構いません。その人を助けたいという“心”が伝わればいいのです。そうすれば、日本人は親切だと思はずです。

友達になれば、国と国の利害も関係ありません。観光は異文化を体験しながら、人と人との関係を築くことでもあり、こうした人的交流が最終的には日本という国の理解につながります。これも観光の大きな役割なのです。

生徒との質疑応答

Q これまで観光業をやってこれて、大変だったことは何ですか？

A 優秀な人材の確保です。スタッフには、楽しく、そして長く仕事をしてもらいたいと思っています。そのためは、いかに観光に興味を持ってもらうかです。これからの観光は、外国

人旅行者ももっと増えて、無限の可能性を持っています。たくさんの人に観光の仕事にチャレンジしてほしいと思います。

Q 海外にも進出すると聞きました。が、どんなことを考えていますか。

A インドネシアのバリでホテルを運営します。日本の経営の難しさは、人件費が高いことです。しかし、その

ために生産性を上げるためのいろいろなノウハウを培ってきました。今度は、文化も違う、仕事に対する考え方も違う国で、そのノウハウがどこまで通用するかがチャレンジだと思っています。皆さんも、ぜひ海外旅行に行ってください。自らが異文化体験をしてみてください。その経験は、提供する側になったときに必ず活かれます。

生徒の感想

●現在の日本の観光について、グラフや資料を多く用いた説明でとても分かりやすかった。これからはG8以外の国からも観光に来日する人が増えるということは英語の学習が必要不可欠だと思うし、コミュニケーションにプラスして、いかにその地域らしさを見せるかが大切だということも学んだ。身近にあるので観光になるのか実感が湧かないことも多いと思うが、逆に地元の人しか知らないこともある。それをどう発信していくかが鍵になると教わったので、この授業をきっかけに宮古の良さをあらためて考え直してみようと思った。知らない土地で迷っている外国人を見たら自分から“May I help you?”と言って交流していきたい。

●今回の出張授業で、「その土地の特徴」をどれだけ見られるかというのが大切だということも学びました。観光という事業の中に、例えば飲食店だったりそれを支える農家の方だったり、さまざまな事業が関係していることに気付かされました。当たり前だと思っていたことが、本当は特別なことなのだと実感しました。

●その地域にまた行きたい、と思ってもらえるようなふるまい、おもてなし、地域らしさを出すことなどすべてに「心」を込めて接することが大切なのだと学んだ。また、来ていただいた方にさまざまな考え方を伝えることや友達になるという、新しい考え方も知ることができた。

●観光地にはそれぞれの特徴があり、それを活かすのは大切なことなのだと思います。大切なのは「心」ということを知り、私はあらためて心について考えさせられました。日本だけでなく、世界はつながっているし、国と国、人と人もつながっている、これからは人と人とのつながりなどをしっかりと考えていきたいと思っています。

●私は、春から温泉旅館で働くことが決まっているので、今回の講話は自分にとってとてもためになりました。東日本大震災を受けた日本でも、観光業は安定していたということを知り、旅行をしたいと思っている人々は世の中にたくさんいるのだとあらためて感じました。これから国内や海外での旅行を盛り上げていくのは私たちの世代だと思うので、自分たちの地域らしさを忘れず、おもてなしの心を大事にしながら頑張っていきたいです。